

令和3年度 第2回 西新宿スマートシティ協議会 議事要旨

日時： 2021年10月29日（金）13:00～14:00

出席者： 小田急電鉄株式会社

(敬称略) 住友不動産株式会社

損害保険ジャパン株式会社

大成建設株式会社

東京ガス株式会社

独立行政法人都市再生機構

株式会社 NTT ドコモ

KDDI 株式会社

株式会社 JTOWER

ソフトバンク株式会社

東日本電信電話株式会社

楽天モバイル株式会社

新宿区

東京都副知事 宮坂 学

東京都フェロー

東京都デジタルサービス局

東京都都市整備局

東京都産業労働局

開催方法： Web 会議

- 議題：
1. 開会の挨拶《東京都宮坂副知事》
 2. 協議会参加者紹介
 3. 協議会の進め方・スケジュールの確認、新規プロジェクトの承認
 4. 【仮説検証 PT】課題調査状況の報告
 5. 【課題解決 PT・都市 OS 検討 PT】各テーマ進捗状況の報告
 6. 【広報・巻き込み TF】各企画・取組の実施状況の報告
 7. 質疑応答・閉会の挨拶

資料： 1. 本編資料

1. 開会の挨拶（事務局）

■ 開会の挨拶（P.2）

（宮坂副知事）

- 第1回協議会では、課題解決のテーマごとに2-3年後の目指す姿が共有され、中長期プロジェクトが開始した。新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオフラインでの取組は難しかったものの、デジタル技術を活用することで様々な取組が可能であることを発見できたと思う。
- 西新宿における東京都の取組としては、令和3年度スマートポール事業及び5G等活用サービス実証事業を推進し、それぞれの事業者が決定したところである。西新宿エリアの広範囲で5G環境を整備し、先端技術の利活用に挑戦できるまちにしていきたいと考えている。
- 一方で、生活者のQOL向上が本協議会の目的であり、先端技術の活用は手段である。西新宿のあるべき姿を生活者と話し合っていくことが重要であると考えている。引き続きご協力いただきたい。

■ 議事次第（P.3）

- 本日の協議会の目的は、西新宿スマートシティ協議会における各取組の進捗状況を確認すること、新規プロジェクトを確認して承認いただくこと、今後の取り組みスケジュールを確認することの3点である。

2. 協議会参加者紹介（事務局）

■ 協議会参加者紹介

3. 協議会の進め方・スケジュールの確認、新規プロジェクトの承認（事務局）

■ 西新宿スマートシティ協議会の概要、各PT/TFの位置づけ（P.5～8）

■ R3 年度会議体実施スケジュール全体像（P.9）

- 1年間の大きなマイルストーンとして、来年1月に「西新宿Smart City Week 2022」を予定している。
- 本日は第1回協議会以降に各PT/TFで取り組んできた内容を報告する。
- 第3回協議会では「西新宿Smart City Week 2022」の企画内容などを報告する。

■ 新規プロジェクトの承認（P.10～13）

- 6～7月に実施した新規プロジェクト募集について、2件のプロジェクト候補を事務局で選定した。

—以下プロジェクト候補の説明—

（株式会社ジョルテ）

- 「スマートシティカレンダー」というカレンダー型情報プラットフォームの構築により、「西新宿エリア全体での統一的な情報の発信」という西新宿の課題を解決していきたいと考えている。
- 生活者においては日常的に使うカレンダーを通して必要な情報を自然と得られる状態、店舗においては来訪者の目につきづらい立地であっても効率的に集客できる状態を目指す。

- 「スマートシティカレンダー」では、スマートフォンアプリだけでなく、人が集まる場所に設置した大型TVを通して生活者に情報を伝達し、西新宿の活性化に貢献していきたいと考えている。
- ジョルテとソニーマーケティングの2社でプロジェクトを開始するが、順次他企業を巻き込んでいく予定である。

(株式会社角川アスキー総合研究所)

- 「西新宿 LOVE Walker」という地域密着型のメディアにより、「西新宿エリア全体での統一的な情報の発信」、「友人知人からの口コミを促すコミュニティの形成」、「他エリアと比して特徴的なまちのブランドイメージの確立」という西新宿の課題を解決していきたいと考えている。
- 角川アスキー総合研究所がこれまで培ってきたメディア運営に関するノウハウを生かし、西新宿における地元愛を訴求していきたい。また、一方的な情報発信に留まらず、地域の生活者・団体による参加型のメディア、UGM (User Generated Media) を目指す。
- Twitter公式アカウントでは既に1.4万人のフォロワーがいるが、地域の生活者・団体による記事の提供によりメディアとして発展してきたため、「西新宿 LOVE Walker」を起点としたコミュニティを醸成していきたいと考えている。

—以下プロジェクト候補への意見—

(発言者A)

- 「スマートシティカレンダー」によって、イベントの終了時ではなく開催中に情報が得られることは意義があると考えます。プロジェクトにおいては、データ集約のためのデータフォーマットを他地域に展開すること、さらに集約したデータをオープンデータ化することで、データの標準化と流通に貢献いただきたい。
- 前橋市ではグラフィックデザイナーと協力しデザイン性に優れた広報紙を発行している。同様に、「西新宿 LOVE Walker」という地域メディアによって地域ブランドが醸成されることが期待できる。
- 以上2件のプロジェクトの立ち上げ及びプロジェクト関係者のオブザーバー参加を提案する。
- 特段の異論がないため、プロジェクトの立ち上げとプロジェクト関係者のオブザーバー参加を承認する。

4. **【仮説検証PT】課題調整状況の報告（事務局）**

- 仮説検証PTの実施方針案 (P.14~15)
- 商店街・テナントの課題調査 (P.16~22)
- 商店街・テナントの課題調査は課題把握アンケート③に位置づけられ、事前のインタビュー調査を踏まえて年末までにアンケート調査を予定している。
- 第1回協議会でご報告した通り、生活者にサービスを提供している商店街・テナントに対する支援の検討も必要であることから、実施するものである。
- 公開資料及びインタビューによる課題仮説立案の後、仮説検証のためのアンケートを実施する。
- デスクトップ調査で整理した課題仮説素案を基に、西新宿エリアの一部の商店街やテナント、ビル

オーナーの方々にインタビューを実施し、調達・物流、マーケティング、販売、活動基盤の観点から課題を整理した。

- 課題仮説をアンケートで検証し、整理した課題を第3回協議会で報告する予定である。
- Well-Being指標の活用検討（P.23～26）
- 第1回協議会においてWell-Being指標の必要性についてご意見いただき、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートで取り組んでいるLiveable & Well-Being City指標（以下 LWC指標）を紹介いただいた。前提として、評価指標は大きく2段階に分かれ、都市・エリア固有の課題を把握する個別指標とエリア間比較によるマクロな課題把握を行う共通指標があり、LWC指標は共通指標に該当する。協議会において昨年度から実施している生活者向けアンケートは個別指標に該当し、今年度も継続して実施することで課題の経年変化を測定する予定である。他方で、LWC指標が該当する共通指標としての取り組みは不足しているため、東京都フェローと意見交換の上、適用可能性を事務局で検討した。
- 西新宿エリアへの LWC 指標の活用を進めるうえで、その適用可能性とエリアへの適用におけるポイントを 3 ステップに分解して整理した。1 ステップ目はオープンデータによる客観指標と、アンケートによる主観指標を取得することであるが、特にオープンデータについて行政区画よりも狭いエリア単位の充実が必要であることが判明した。2 ステップ目は、都市・エリア間で指標値を比較し相対的な視点で課題を把握することである。複数のエリアで共通化した項目で調査することが必要であり、西新宿エリアだけでは完結できないことが判明した。3 ステップ目は、相対評価により把握した課題を解決する施策の検討段階となるが、LWC 指標の活用により明らかになる課題は広域的に解決すべきものも存在することが判明した。共通指標の必要性や LWC 指標の考え方については事務局としても共感しているため、まずは 1 ステップ目のデータ取得方法から調査・研究を行っていく予定である。

5. 【課題解決PT・都市OS検討PT】各テーマ進捗状況の報告（事務局）

- 課題解決PT・都市OS検討PTの実施方針案（P.27～28）
- 中長期的な視点での検討テーマの全体像（P.29～31）
- 課題解決PTの4テーマと都市OS検討PTの1テーマの計5テーマを対象としている。
- 本日は、第1回協議会で承認された5つのプロジェクトについて報告いただく。

—以下各プロジェクトの説明—

テーマ① 地域の魅力創出（P.32～34）

（小田急電鉄株式会社）

- WoWセッション、WoWシネマを企画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。WoWシネマでは、イベントのプラットフォームとして、他企業・団体と連携して様々な取組を同時開催する予定であった。また、電子チケットの導入も企画していたところである。
- Candle Nightを新宿中央公園で12月下旬に開催する予定である。キャンドル制作には地域の

方々が参加する。また、オンライン配信や人流解析の方法を協力企業と検討中である。

- 「新宿中央公園検定」というWebクイズを公開した。新宿中央公園に関するクイズに答え、さらに「西新宿 LOVE Walker」の関連記事を読むことで、新宿中央公園の理解を深めることが目的である。

テーマ② 認知度向上・地域への参画促進 (P.35~37)

(東日本電信電話株式会社)

- 昨年度は落語に関するコミュニティ活動を実施したが、今年度は二つのコミュニティ活動を予定している。
- 一つ目に、芸能実演家団体協議会と日本舞踊をテーマに日本文化・礼儀を学ぶコミュニティ活動を企画している。「西新宿Smart City Week 2022」に向けて年4回の実施を予定している。
- 二つ目に、クリアソン新宿と西新宿の街をクラブメンバーと共に散策するコミュニティ活動を企画している。年6回の実施を予定している。
- 「西新宿Smart City Week 2022」期間中のコミュニティ活動においては、オンライン配信を検討している。

テーマ③ 移動環境の整備 (P.38~40)

(損害保険ジャパン株式会社)

- 西新宿で働く、遊ぶ、暮らす人々が複数の移動手段を安心・安全・快適に利用できる状態を目指し、西新宿の回遊性向上に貢献したいと考えている。
- 施策としては、第一に、西新宿のエリア内スポットをつなぐ次世代モビリティを提供すること、第二に、保険会社である損保ジャパンが中心となって安心・安全・快適な移動サービス実現に向けて取り組むこと、第三に、複数の次世代モビリティ関連のサービスを連携させることを考えている。
- 今年度は東京都公募事業の採択を受けて、二つの実証を予定している。第一に、まちのインフラと連動した自動運転サービス、第二に、モノの移動を支援する自動配送サービスを実証予定である。

テーマ④ 新たなワークスタイルの確立 (P.41~43)

(株式会社KDDI総合研究所)

- 「必要な時にチームで集まって議論ができる環境の提供」、「騒音がなく、プライバシーの確保された環境の提供」という働く環境における課題と、「普段出会わない社外の人とのビジネス交流機会があること」というビジネス交流における課題に対して、それぞれワークスペースの構築、ジョブマッチングプラットフォームの構築に取り組んでいる。
- ワークスペースの構築は、東京都公募事業の採択を受けて実証予定である。モンゴルのゲルをモチーフとした形状により、需要に応じた場所やサイズの変化が可能である。また、5G通信によって他会議室と円滑な連携を目指す。
- ジョブマッチングプラットフォームの構築は、協力企業と共にビジネス交流が生まれやすい仕組みづくり

に取り組んでいる。

テーマ⑤ エリア共通基盤の整備（P.44～50）

（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）

- 今年度は特定の移動サービスにおける利活用をケースに、エリアOSの検討・実証を実施している。
- オープンスペースの利活用を促進するという目的のもとに3つのユースケースを企画している。
- 第一に、現状を正しく知るためのデータライブラリ、第二に情報を分かりやすく伝えるダッシュボード、第三にサービスを高度化するための人流予測シミュレータである。
- 関係各所の協力によりベータ版が完成間近であり、高精度な3Dマップが構築されている。
- 今後は、エリアOSの効果検証として、オープンスペースの利活用やサービスの高度化に対するエリアOSの貢献度を検証していきたいと考えている。

■ オブザーバー参加承認

- 既存プロジェクトの関係者によるオブザーバー参加を提案する。
- 特段の異論がないため、既存プロジェクト関係者のオブザーバー参加を承認する。

■ 西新宿エリアにおける東京都デジタルサービス局の取組み（P.51-55）

（東京都 デジタルサービス局）

- 西新宿エリアにおける東京都デジタルサービス局の取組を3点報告する。
- 一点目は、スマートポールの面的設置である。5G、高速Wi-Fi及びセンサー等の様々な機能を備えた次世代都市インフラで、つながる、見える、伝わる、の3つの機能を搭載している。今年度はスマートポール20基を面的に整備し、有用性や収益性等を検証する。8月には事業者が東京電力パワーグリッド株式会社及び東日本電信電話株式会社との共同提案として株式会社JTOWERに決定した。現在は設置に向けて現地作業を進めているところである。
- 二点目は、5G等活用サービスである。スマートポール等によって面的に整備されている5Gの通信環境を活用したサービス実証として、8つの事業者を決定した。実証者名及び概要は以下のとおりである。
 - 株式会社NH研究所：パレット（無人移動台車）を活用したプラットフォームサービス
 - 株式会社KDDI総合研究所：新たなワークスタイルの確立 5G × 屋外ワークスペース
 - 株式会社JTOWER：地上でも地下でも安心・安全かつスマートに移動できる街づくり
 - ジョルダン株式会社：「ITのチカラで西新宿を賑わいのある街へ」
 - シスコシステムズ合同会社：セキュア公衆Wi-Fiローミング・双方向多言語コミュニケーションサービス
 - 株式会社ティアフォー：5G × 自動配送サービスプラットフォーム事業
 - 株式会社ビーブリッジ：5G × ARの先端技術を活用した新たな移動体験サービスの提供
 - Fullon株式会社：ヒト検知AIと非GPSロケーションサービスによるスマートシティプラットフォーム

△

- 三点目は、自動運転である。西新宿は輸送ニーズが高い地域特性を持ち、先行的に5Gを整備している。5Gを活用した自動運転の早期事業化を目指し、本年度は2つの実証を実施する。一つ目は、京王電鉄バス株式会社による自動運転バスの実証である。5Gの通信インフラを遠隔監視に活用し、顔認証技術を取り入れた実証である。二つ目は、大成建設株式会社による自動運転タクシーの実証である。信号や道路等に設置したセンサー情報を走行支援に活用する実証である。

■ 西新宿の課題解決に向けた各プロジェクトの推進に関する討議（P.56）

- これまでの説明を踏まえ、「各検討テーマのプロジェクトの更なる魅力向上、円滑な推進のため、各プロジェクトへのご支援やプロジェクト間における協調が可能な点」について、皆様からご意見をいただきたい。

—以下討議内容—

（発言者B）

- 各プロジェクトの具体化が進んでおり、実証が開始されていくことに期待ができた。実証の開始後は、利用者の満足度を検証していただきたい。

（発言者C）

- 西新宿のエリアOSの優れているところは第一に、ユースケースを念頭に構築している点にある。多くの事例ではデータ連携という漠然とした目標のもとにプラットフォームの構築から取り組んでいるが、西新宿のようにユースケースから取り組むべきである。第二に、LINEを通してコミュニティメンバーが存在する点である。多くの事例では、ユースケースを事業者本位に構築しているが、西新宿ではコミュニティメンバーが存在するため、生活者と事業者が軌を一にしてエリアOSの在り方を検討できる。
- 既存のコミュニティメンバーに加えて更に幅広い層を巻き込んでいくことが可能なのではないか。六本木で開催されている「ルール？展」で若い人が集まっていることからわかるように、若い人はまちの変化に高い関心がある。デジタル技術を使ったまちづくりをコンテンツとしてアーカイブ化することで、若い人を巻き込んでいけるのではないかと。西新宿の変化に関心を持ち、コミュニティメンバーとして参加する方も増えていくと思う。

（発言者D）

- 西新宿は具体的なユースケースを基に多数の取組を行っていることが特徴である。他方で、これだけの取組がある中で、西新宿における価値は何かを改めて整理することが必要であると考えます。
- また、都市におけるインクルーシブデザインも検討すべきである。多様なサービスの導入により一部の人間にとっての生活が便利になる一方で、これまでの都市の価値を享受してきた人々や障がい者にとっての生活が不便になるトレードオフが発生してしまうことがある。インクルーシブデザインに関する勉強会等を開くことで、倫理的な観点から都市の在り方を検討すべきではないかと。

(発言者E)

- 多様な人々を惹き付けられる寛容な都市を目指すべきであると考え。西新宿においては、協議会メンバーをはじめとして様々な企業がまちづくりに挑戦いただいていることに大変感謝している。また、協議会メンバーのみならずLINEを通じたコミュニティメンバーをさらに拡充し、一致団結してまちづくりに取り組んでいきたい。
- 既成市街地の価値向上に向けて、都市空間におけるデジタル活用の在り方を検討している。フィジカルとデジタルが融合し、多様な人々が幸福になれる都市を目指していきたい。

(発言者F)

- エリアOSのユースケースが具体化され、イメージがしやすくなった。エリアOSが他都市に展開できるモデルケースとなるためには、各ユースケースが連動することによって実現されるユーザー体験を具体化していくことが重要である。

(発言者G)

- 生活者は、店舗や場所を発見できたことや新しい人と繋がれたことに価値を感じているようである。今後は、デジタル技術を活用して西新宿の再発見や交流をさらに促進していくべきであると考え。
- 「西新宿Smart City Week 2022」に向けてはさらに連携を強め、西新宿のプレゼンスを高めていきたい。

(発言者H)

- 自動運転においては自動運転車内のコンテンツが重要であると考えている。紙とデジタルが統合した地域メディアに取り組んでいきたい。
- 情報の統合を目的とするのではなく、エリアにおける様々なレイヤーの情報を可視化すること、生活者がメディアに関わるのが重要であると考え。

(発言者I)

- 西新宿では多様な方々が生活しているため、幅広いコンテンツを提供していくことが満足度向上に寄与すると考えている。そのためには、多様なコンテンツ提供者を西新宿に呼び込むことが重要である。まちづくりに多様な方々が参加できる環境をどのように作り上げていくか、今後協議会で議論していきたい。

(発言者J)

- 商店街・テナントに配慮した上でアンケートを実施するべきである。地域の声をまちづくりに生かす上でアンケートは必要であるものの、商店街・テナントにとっては緊急事態宣言明けということもあり、これからが正念場である。アンケートの協力依頼を丁寧に行い、負担が少ない形で実施することが求

められる。

- オープンスペースの利活用については行政手続きにおける制約があることへの理解も促進したい。エリアOSにおいてオープンスペース情報を一元化することは有意義ではあるが、実際には行政手続きに時間がかかるため、オープンスペースの利活用検討者に対して伝える工夫が必要ではないか。

6. 【広報・巻き込みTF】各企画・取組の実施状況の報告（事務局）

- 広報・巻き込みTFの実施方針案、全体像（P.57～59）
 - 広報・巻き込み活動の企画は、勉強会、意見交換会、認知度向上施策、「西新宿Smart City Week 2022」及びホームページ・LINEの運用である。
- 勉強会・意見交換会の実施状況（P.60）
 - 勉強会は5月から隔月で実施しており、都市OS・エリアOS、スマートポール、オープンスペースをテーマに開催した。それぞれ20名以上が参加し、質疑応答や意見交換が活発に行われた。11月も開催を予定しているため、皆様にも参加いただきたい。
 - 意見交換会は、LINEコミュニティメンバーとの実施に先駆けて、小田急電鉄株式会社がPT/TFメンバーと実施した。11月にはコミュニティメンバーとの意見交換会を予定している。また、他プロジェクトリーダーも意見交換会を計画している。
- 「西新宿Smart City Week 2022」の開催案（P.61）
（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）
 - 来年1月には、西新宿で様々な実証実験やイベントが同時期に開催される予定であるため、一つのイベントとして情報発信を行いたいと考えている。「西新宿Smart City Week 2022」と題して、都民の方々が西新宿のスマートシティの取組を体験できる数週間にしていきたい。
 - 「西新宿Smart City Week 2022」に向けて、各取組の実証時期や情報発信方法については各実証者と今後相談をしていきたい。引き続きご協力いただきたい。
- HP・LINEの活用状況（P.62）
 - ホームページは、お知らせの配信や各プロジェクトの紹介等を行っている。週に最低200ビューあり、第1回協議会の開催後に最高値を記録した。LINEは、個人情報の取り扱いに関する報道を受けて一時的に利用を停止していたが、6月末から情報の配信を再開した。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりプロジェクト推進にも影響が生じており、LINE登録者とのコミュニケーション頻度が少なくなっているが、今後は増やしていきたい。具体的には、「西新宿Smart City Week 2022」における体験機会の場や、意見交換会の場の提供を検討している。

7. 質疑応答・閉会の挨拶（事務局）

- 閉会の挨拶（P.63）
（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）
 - 様々な活動にまずは挑戦することの重要性を感じている。挑戦することで知見を蓄積し、反省を生かしながら前進していくことが重要なのではないか。

- また、協議会メンバー間で西新宿における夢を共有する場を作りたいと考えている。今後とも協議会メンバーと結束してまちづくりを推進していければ幸いである。引き続きお願い申し上げます。

以 上